

# 2008年3月期中間決算説明会

2007年11月27日

日本ロジテム

証券コード: 9060

URL:http://www.logitem.co.jp





② 通期の見通しと今後の取組み





# 1 2008年3月期中間決算の実績

2. 通期の見通しと今後の取組み



# 2008年3月期中間決算のポイント(連結)

### 連結営業収益は期初計画値を上回ったものの、 経常利益では未達

国内の貨物自動車運送事業で一時的な輸送効率の悪化と、 金利負担増が要因

### 施工事業、バルク運送事業の拡大

グループ会社の再編による営業力の強化

### 国際物流事業が高成長期

ベトナムを中心に海外売上高比率が11.8%に伸張



# 2008年3月期中間決算の概要

注)利益率の増減は前年同期比ポイント (単位:百万円、%)

	07/9期			06/9期	07/9期
	実績	前期比(%)	計画比(%)	実績	計画 ※
連結営業収益	17,910	+6.7	+1.8	16,785	17,600
連結営業利益	474	+2.3	-1.2	463	480
(同利益率)	2.6	−0.2P	−0.1P	2.8	2.7
連結経常利益	384	-7.1	-3.8	414	400
(同利益率)	2.1	−0.4P	−0.2P	2.5	2.3
連結当期純利益	214	+27.9	+7.1	167	200
(同利益率)	1.2	+0.2P	+0.1P	1.0	1.1

#### ※期初計画数値

-06/9期 海外関連会社TTMレート(月末平均) 千日:3.59NT\$、香港:14.89HK\$、ベトナムNo.1·2·L&K·LVC115.57US\$、 上海物流·上海倉庫:14.38RMB、タイ:3.00BAHT

-07/9期 海外関連会社TTMレート(月末平均) 千日:3.66NT\$、香港:15.42HK\$、ベトナムNo.1·2·L&K·LVC:120.50US\$、

上海物流·上海倉庫:15.63RMB、タイ:3.68BAHT



# 施工事業、バルク運送事業の拡大

グループ会社の事業分担の明確化により競争力・営業力を強化

2007年4月 ロジテムエンジニアリング設立

施工事業の業容拡大を目指すため、日本ロジテムから事業を分離・独立

2007年10月 ロジテムトランスポートに統合

バルク車両の事業拡大と経営効率化 を図るため子会社2社を合併

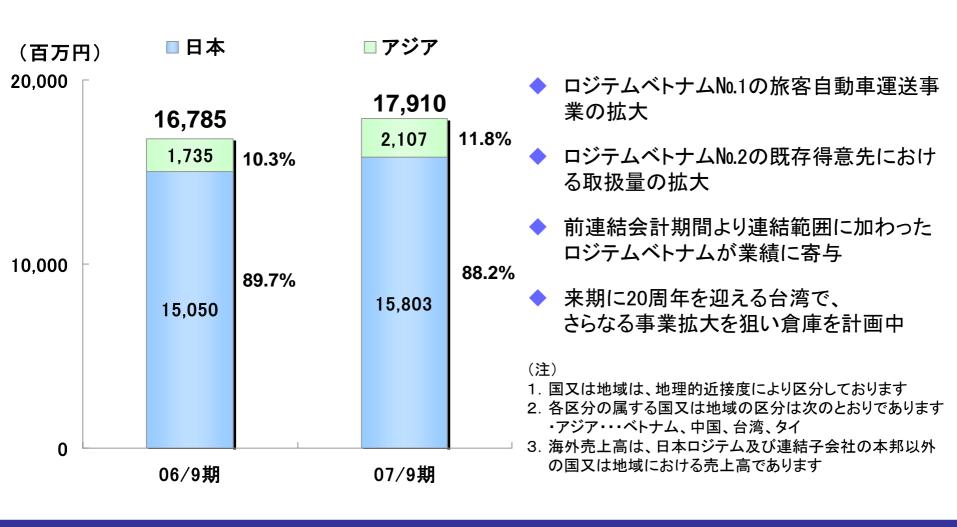






### 国際物流事業が高成長期

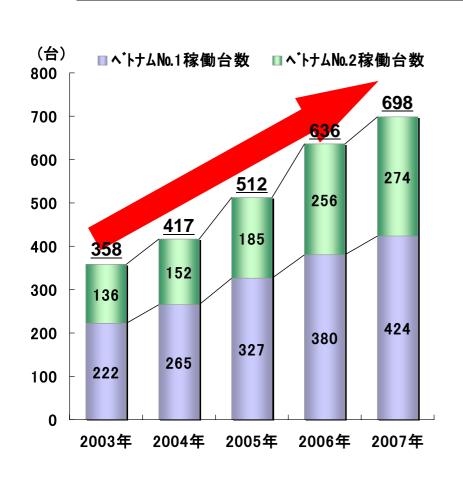
### 海外売上高比率が11.8%に伸張

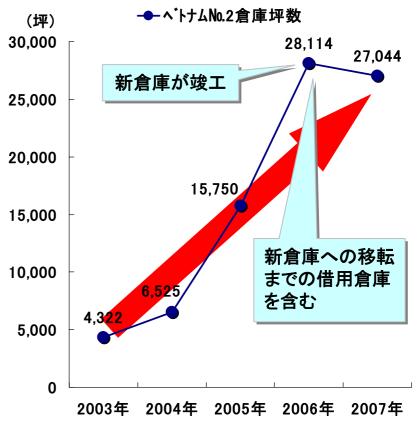




### 事業拡大続くベトナムグループ

#### 4年間で稼働台数1.9倍、倉庫坪数6.3倍に増強





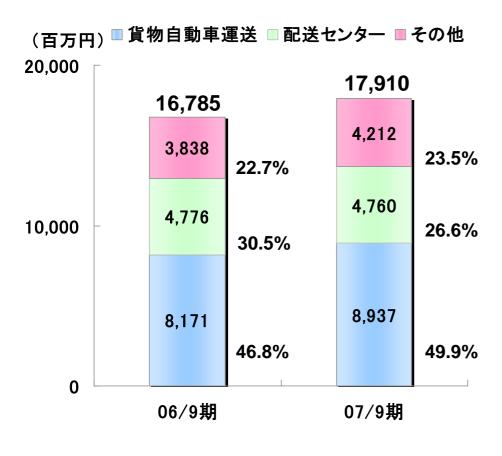
(注)

- 1. 車両台数: 自車両・リース車両・協力車両の合算数値
- 2. 倉庫坪数: 自社倉庫・賃借倉庫の合算数値
- 3. 海外子会社は12月決算、2007年のみ9月末実績値



### セグメント別連結営業収益

### 貨物自動車運送事業とその他事業が営業収益を牽引



### 貨物自動車運送事業は、前年同期比9.4% 増収

- 阪神ロジテムの既存得意先の配送エリア拡大
- ロジテムベトナムNo.2の営業強化
- ロジテムトランスポートのバルク輸送の拡大

#### 配送センター事業は、同0.3%減収

日本ロジテムにおいて一時的に空スペースが 発生

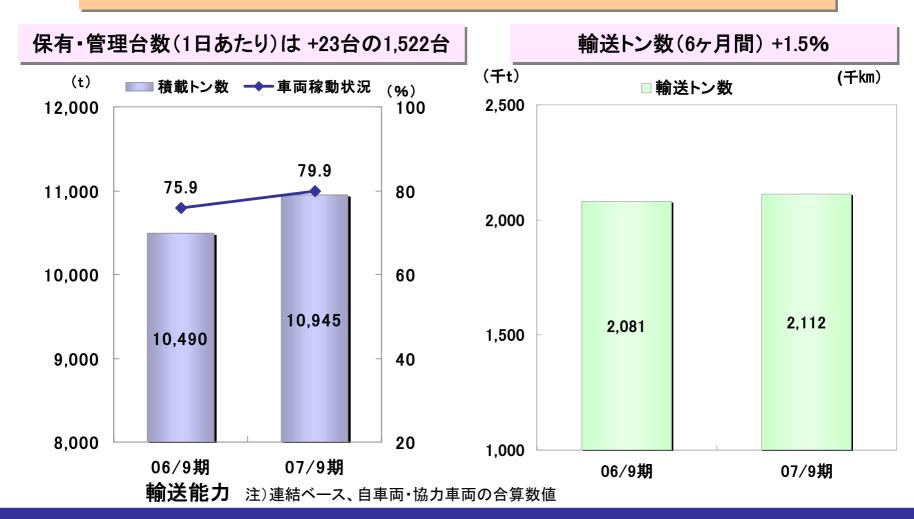
#### ■ その他事業は、同9.7%増収

- 日本ロジテムの施工事業の拡大
- 日本ロジテム、ロジテムエージェンシーの工場 内請負業務の拡大
- ロジテムベトナムNo.1の旅客自動車運送事業 の拡大



### 貨物自動車運送事業

### 前年同期比9.4%増収、16.7%営業減益 輸送能力が4.3%アップ、車両稼働率は4.0Pアップ

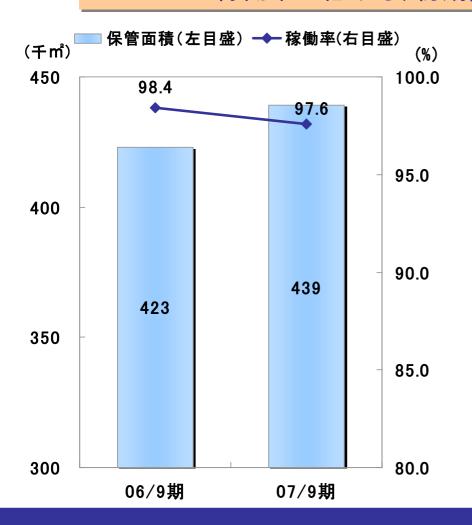




### 配送センター事業

### 前年同期比0.3%減収、12.4%営業増益

稼働率の低下も、初期費用解消による増益



	06/9	07/3	07/9
倉庫棟数	98	111	101

- ◆ 保管面積は、前期比3.9%増の439千㎡
  に増加
- ◆ 稼働率は、高水準維持も一時的に空スペースが発生し、0.8ポイント低下
- ◆ 前連結会計期間における一部得意先移 設による初期費用が解消し、増益

#### 注)賃借物件を含む



### その他事業

### 前年同期比9.7%増収、28.8%営業増益 業務請負拡大、旅客車両増強、施工事業の強化

#### 業務請負、人材派遣

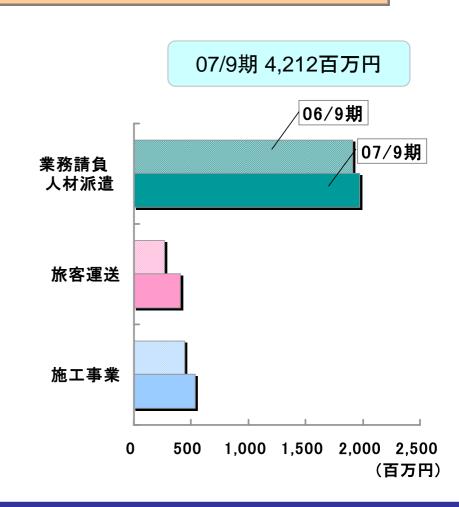
営業収益19億69百万円(+3.1%) 60百万円の増収

#### 旅客運送事業

営業収益4億5百万円(+52.3%) 1億39百万円の増収

### 施工事業

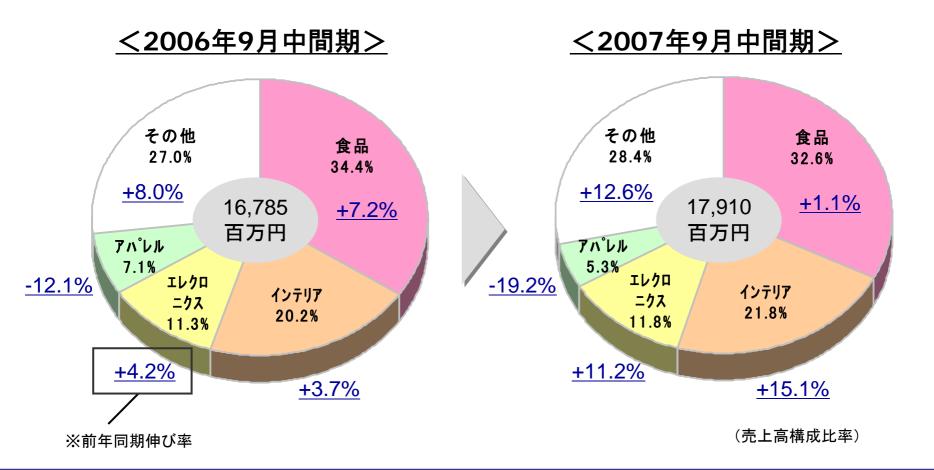
営業収益5億35百万円(+20.6%) 91百万円の増収





# 取扱い品目別情報

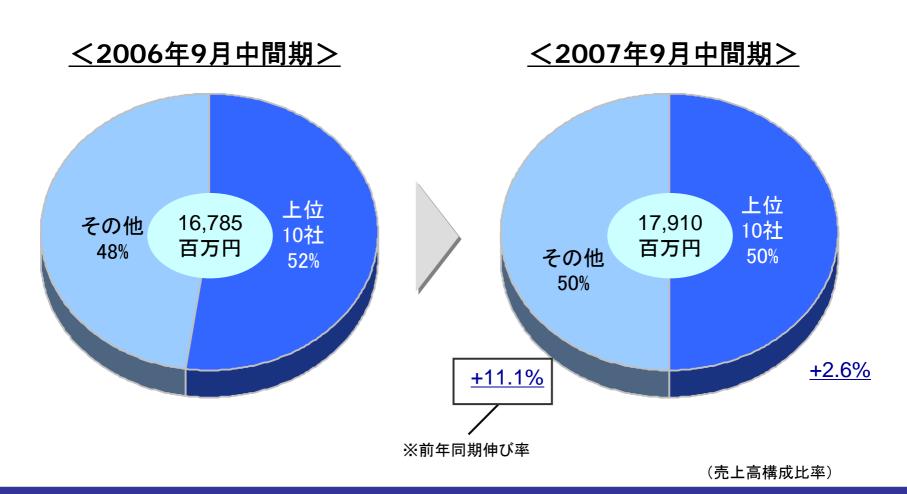
主力アイテムの取扱高が続伸 インテリア+15.1%、エレクトロニクス+11.2%、その他+12.6%





# クライアントの状況

### 安定した顧客ポートフォリオ 上位10社が50%を占める





# 連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

			(早	世:日刀口、物)
科目	06/9期	07/3期	07/9期	増減額 ※
【資産の部】				
流動資産	7,388	8,112	7,902	△210
固定資産	22,146	22,090	22,230	139
資産の部合計	29,534	30,203	30,132	△70
【負債の部】				
流動負債	9,952	10,484	9,773	△710
固定負債	8,727	8,648	9,070	421
負債の部合計	18,679	19,133	18,844	△288
【純資産の部】				
株主資本	10,604	10,722	10,881	159
評価•換算差額等	19	80	139	59
少数株主持分	231	267	267	Δ0
純資産の部合計	10,855	11,070	11,288	218
負債•純資産合計	29,534	30,203	30,132	△70
(有利子負債	11,745	11,861	12,064	203)
※増減額は、07年3月期末比				





2 通期の見通しと今後の取組み



# 2008年3月期決算の見通し

注)利益率の増減は前期比ポイント (単位:百万円、%)

	08/3期(予)		07/3期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
連結営業収益	36,500	+5.5	34,586	+6.2
連結営業利益	1,030	+9.0	945	+2.0
(同利益率)	2.8	+0.1P	2.7	-0.1P
連結経常利益	870	+3.4	841	+0.8
(同利益率)	2.4	±0P	2.4	−0.2P
連結当期純利益	400	+17.6	340	-14.2
(同利益率)	1.1	+0.1P	1.0	-0.1P
連結EPS	29.2	+17.6	24.9	-14.2
配当	8.0		8.0	

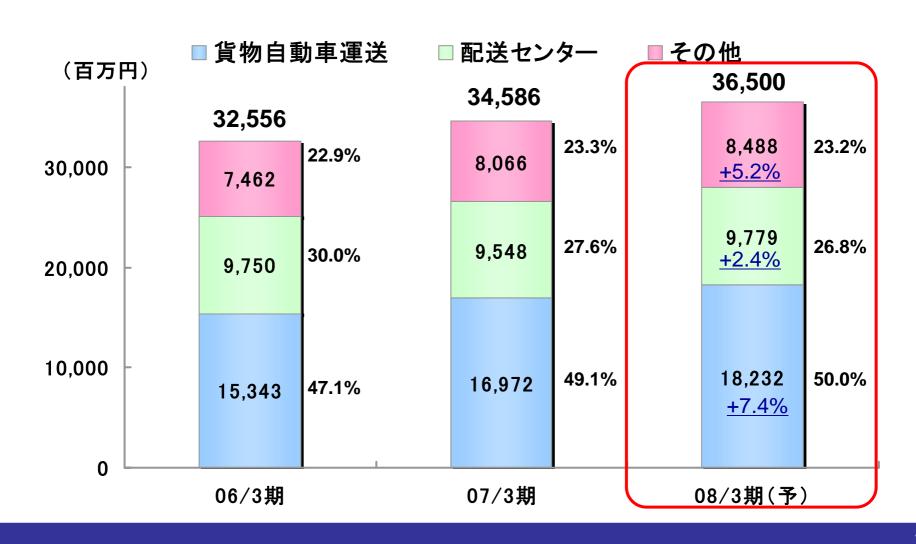
・08/3期前提 海外関連会社TTMレート(月末平均)

千日:3.58NT\$、香港:15.00HK\$、LV1·LV2·L&K·LVC:116.40US\$、上海倉庫·上海物流:14.60RMB、タイ:3.09BATH



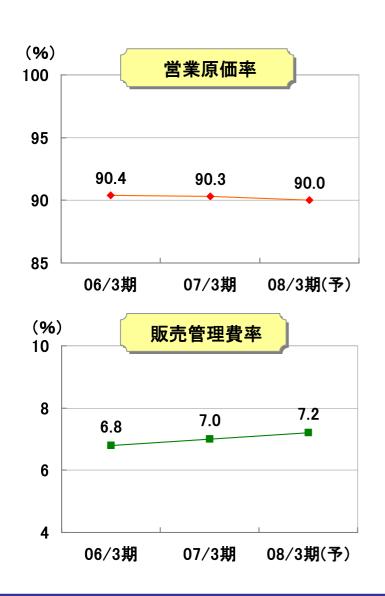
# セグメント別営業収益

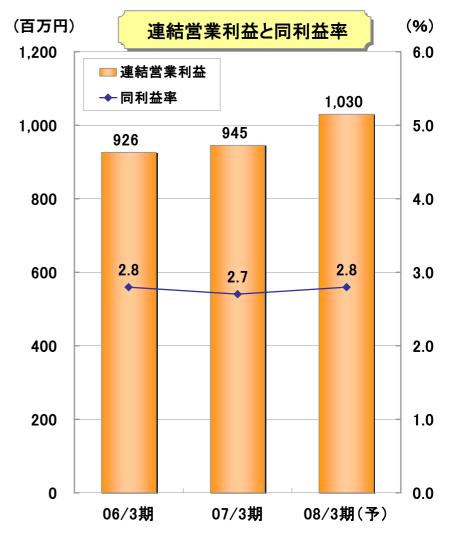
### 貨物自動車運送が前期比7.4%増と続伸、その他事業も同5.2%増収へ





# 営業利益の見通し







# 当社グループを取り巻く環境

#### メーカー物流の再編が加速

### メーカー各社は

- 管理コストの低減のため、物流業務のアウトソーシングを加速
- 物流システムの効率化を狙い、発注先を集約化(元請業者の 選択)

### 当社グループが元請業者に選ばれる理由

サービスレベルの高さと蓄積されたノウハウ(専門性)



### 今後の取組み

### 更なるビジネス拡大のために機動力を強化

ロジテムグループ の組織力強化

業際事業の専門性向上による 営業力・技術力の強化

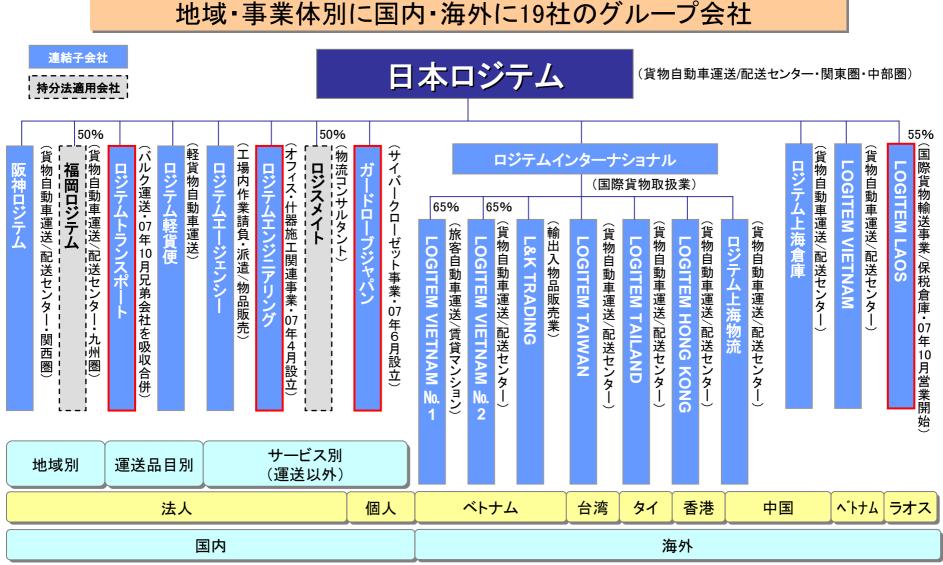
ローコスト・オペレー ションの推進

基幹統合システムの活用 による日々管理機能の強化

インドシナ半島に おける物流事業拡大 ラオス物流事業へ進出 アジアンハイウェイ東西回廊を 利用した国際陸上輸送網を構築



# ロジテムグループの組織力強化



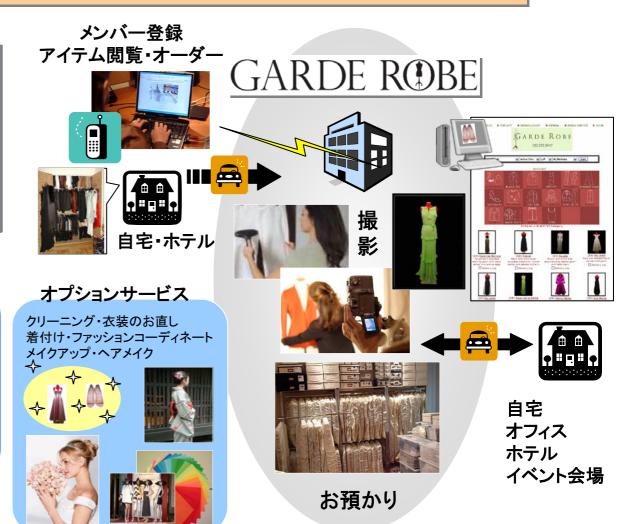


# サイバークローゼット事業へ進出

### BtoC(企業対個人)へ進出、高付加価値サービスを提供

2007年10月 ガードローブジャパン 営業開始

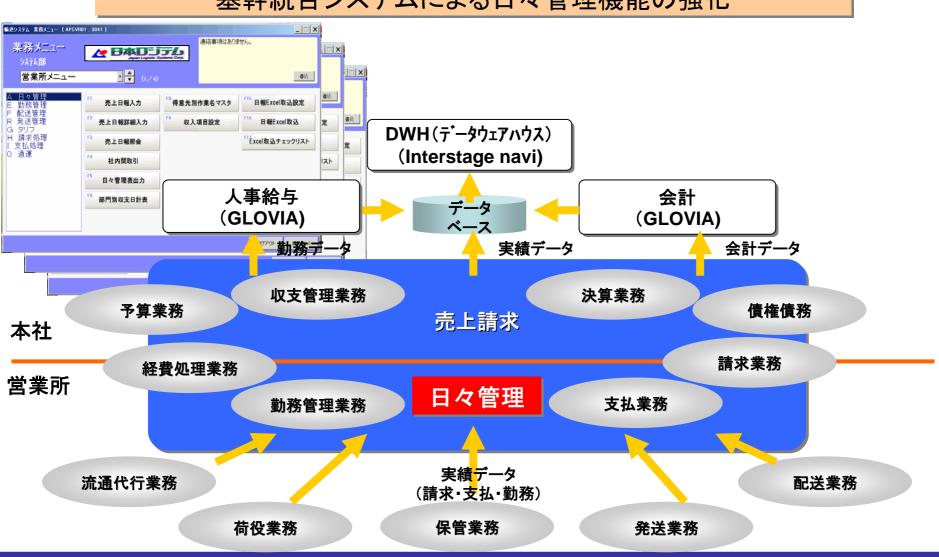
個人富裕層を対象とした 会員制サイバークロー ゼット事業へ進出





### ローコスト・オペレーション活動の推進

#### 基幹統合システムによる日々管理機能の強化





# インドシナ半島における物流事業拡大

### アジアンハイウェイ東西回廊を利用した国際陸上輸送網を確立

### 2007年10月 ロジテムラオス営業開始

2007年6月に第三者割当増資引受けにより、ラオス物流会社を子会社化 とする合弁契約を締結

商号を「ロジテムラオス(LOGITEM LAOS GLKP CO.,LTD.)」に変更し、 同年10月営業開始

インドシナ半島全体を視野に入れたロジテムグループの一貫輸送体制を確立







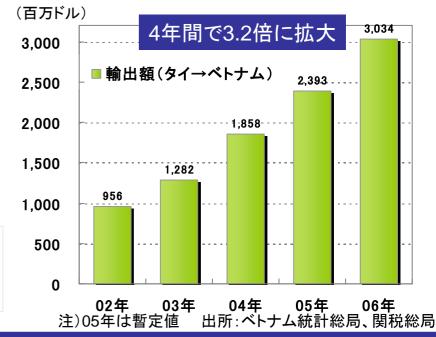


### インドシナ半島における事業構想



### 2006年12月 アジアンハイウェイ 東西回廊全通

- **■** タイ〜ベトナム間の国際輸送網の確立
- トラックターミナル事業の運営
- タイ・ベトナムの営業拡大
- 先行進出による優位性の確保





### 環境保全活動の取り組み

### 「人と環境にやさしい物流」の推進

### 「モーダルシフト取り組み優良事業者」に選出

(社団法人日本物流団体連合会認定)

- 長距離トラック輸送から鉄道コンテナ輸送 (31ftコンテナ等)への積極的な提案

# 「グリーン経営認証」倉庫部門を取得(国土交通省推奨)

- 全営業所で廃棄物の削減、電力・紙の 使用量減少を推進
- 昨年度は、運輸部門を取得
- ISO14001認証は、本社で取得済み



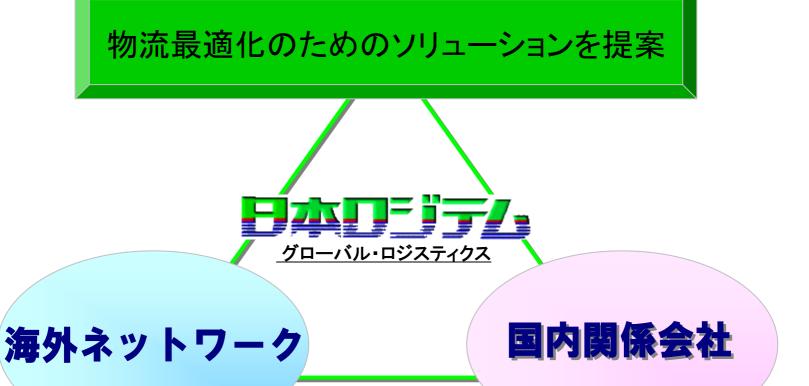






# 日本一信頼される企業グループを目指す

保管、荷役、流通加工、情報システム、3PLへと進化するロジスティクス業界





# ご参考:トピックス(4月~10月)

	内 容
4月	<ul><li>●子会社「ロジテムエンジニアリング」を設立、10月営業開始</li><li>●内部統制システムの整備・確立を目的に「内部統制準備室」を新設</li><li>●物流改善事例大会で社員の発案による「タンク洗浄システム」と「手作り検品台車(※物流合理化賞を受賞)」を発表</li></ul>
5月	
6月	<ul> <li>●ラオス物流会社を第三者割当増資引受けにより子会社とする合弁契約を締結、 商号を「ロジテムラオス(LOGITEM LAOS GLKP CO.,LTD.)」へ変更し、10月営業開始</li> <li>●子会社「ガードローブジャパン」を設立、10月営業開始</li> <li>●新日本監査法人を会計監査人として選任</li> </ul>
7月	●倉庫部門を中心に「グリーン経営認証」を取得
8月	<ul><li>●本社事務所を移転</li><li>●都立学校の教員研修の受入</li></ul>
9月	<ul><li>●社会貢献活動の一環として交通安全活動を継続的に実施</li><li>●ベトナム社員の国内教育研修を実施</li><li>●インターンシップの受入</li></ul>
10月	<ul><li>●子会社「ロジテムトランスポート」と「大阪信和運輸」を合併</li><li>●社団法人日本物流団体連合会が実施する「モーダルシフト取り組み優良事業者」に選出</li></ul>



## ご参考: 改善事例①タンク洗浄システムを開発

### 「全日本物流改善事例大会 2007」で発表

#### 「粉体運搬車の清掃作業の効率化」をテーマに発表

- 清掃時間が1台あたり6時間要する
- 現行の高圧ガンでは、仕上がりにムラがでる
- 夏季は、暑さで作業負担が大きい
- 雨天時は清掃不可



	改善前	改善後	
洗浄時間	120分	60分	
乾燥時間	90分	45分	
仕上時間	60分	45分	
休憩時間	60分	0分	
準備時間	30分	30分	
時間合計	360分	180分	

1,260万円/年間のコスト削減(推定)

※「全日本物流改善事例大会」: 社団法人日本ロジスティックスシステム協会主催。物流ノウハウを共有化し、物流業界の発展を目指して年1回実施されている。



# ご参考:改善事例②手作り検品台車を開発

### 「全日本物流改善事例大会 2007」で発表



#### 「ピッキング・検品作業の効率化」をテーマに発表

- ピッキング後の梱包作業で混入が発生
- ハンディーターミナルの応答が遅い。
- ハンディーターミナルの音や字が小さい
- 送状が8種類あり、用紙交換の切替が困難

	改善前	改善後
応答時間	180分	30分
印刷時間	45分	15分
歩行	1,200歩	0歩
作業者	18人	12人

720万円/年間のコスト削減(推定)

※「全日本物流改善事例大会」: 社団法人日本ロジスティックスシステム協会主催。物流ノウハウを共有化し、物流業界の発展を目指して年1回実施されている。



- 本資料に記載されております当社の将来の業績に 関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な 情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リ スクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、 見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。